1年生（81期生）の山川清陽さんの活躍

私の近畿新人大会は、まだドームが設置されていた頃の5月のタイムトライアルで、26 秒台を出せたときから始まりました。先輩から「清陽なら近畿新人行けるんじゃね！」と言われ、その存在を認知した私には、標準記録を突破することへの希望が湧いてきました。

しかし、「あと4ヶ月もあるやん」と思っていた当時の私は、1　本限りのレースでタイムを出すということの難しさを、分かっていませんでした。中央大会には出場したものの思うような泳ぎ、タイムを出せなかった私は、水泳に真剣に向き合うようになります。昼練には毎日行き、タイトな放課後の練習時間ではできないフォームの確認や先輩への質問などでインプットをし、その日の放課後練でのアウトプットする、というサイクルを作りました。

新人戦当日では、部活の皆や、先生方、OB さんたちからも応援の連絡が届き、「自分ってこんなに応援されてたんや」と胸が熱くなったことを覚えています。

この大会を通して、真剣、全力でやることの価値を実感出来ました。自分に最大効果を与えられることも勿論ですが、真剣、全力で何かに向き合っている人には、自然と人がついてきてくれるのだと思います。応援する側とされる側、期待とプレッシャーの両方を味わうことのできる、天高水泳部で高め合えることの感謝を忘れず、よい水泳ライフを送っていきたいです。